観光立国の実現は地方（地域）から

観光関連団体トップの新年あいさつ

生産性の向上が最も重要

日本旅館協会会長　針谷　了

新年あけましておめでとうございます。

戦後日本の高度経済成長は、人口増と生産性の向上により成し遂げられました。生産性の低い地方の農家の労働力を生産性の高い製造業へシフトできたこともあります。

我が国の人口が減りつつある現状において国力・GDPを増やすには生産性の向上が最も重要です。特に改善の余地の大きいサービス産業において生産性を向上させることは非常に有効であります。

生産性の向上は人手不足対策だけでなく、長時間労働の軽減、待遇の改善、収益力の向上などにより、旅館・ホテルでの良質な人材の確保が図れ、長期的な視点から業界の発展に寄与するものであります。

IT化、機械化などだけでなく、シフト管理の適正化、多能工化、作業動線の改善など、資金のかからない手段も多くあります。

また、生産性向上はトップダウンとボトムアップの両方が重要であり、ボトムアップの中心は改善活動にあります。改善活動は社員の能力向上だけでなく、生きがい・働き甲斐を高めることにもなり、モチベーションがアップし、企業価値を向上させます。当協会として支援できる体制をとってまいります。

当協会は労務委員会が中心となり、8軒のモデル旅館・ホテルを選定し、昨年10月1日に「旅館ホテル生産性向上協議会」を開催しました。まずは財務だけでなく、事業や組織にまでわたる経営分析を日本生産性本部に実施していただき、その中で現場においてどのようにすれば生産性が向上するかのノウハウの蓄積をしたいと思っております。その後、各支部連合会単位での勉強会の開催などを通じて、全国に波及してまいりたいと思っております。

インバウンドの飛躍的な増加が旅館業にもようやく好影響を及ぼしてきました。このチャンスを生かすためにホームページの多言語化やWi－Fiの整備が必要であります。IT戦略委員会が格安でホームページの多言語化ができるプランを作ってくれました。ぜひご活用いただきたいと思っております。

各委員会のメンバーには、協会発展のため汗を流し、知恵を絞っていただいております。

旅館・ホテルが抱える耐震や民泊問題だけでなく、観光政策、人手不足対策など多様な課題に対し、政権与党や観光庁をはじめとした関係官庁・関係機関と密接にコンタクトを取り、スピード感をもって会員目線で取り組んでまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。

外国人の食の期待度高い

国際観光日本レストラン協会会長　尾川　欣司

新年明けましておめでとうございます。

皆様には新しい年をお健やかにお迎えになられたこととお慶び申し上げますとともに、あわせて昨年、賜りましたご支援、ご厚情に深謝し、心より厚く御礼申し上げます。

昨今、景気も徐々に回復し、平成27年においても順調に推移し、堅調軌道にあるとされておりますが、少子高齢化の影響等の要因もあり、長期的な観点からは国内の飲食業界の縮小傾向にあるとも言われております。また企業間の競争は激化する一方、新規参入も相次ぎ、各社、生き残りをかけた戦略を模索中であり、今後とも引き続き、厳しい経済情勢が続くものと思われます。市場規模が縮小する中、多様化する消費者のニーズをいかに捉えるか、このような動きが今後も加速すると考えられます。

インターネット等による情報が普及した今日、消費者自らが良質の食材を手に入れることが容易となり、自宅等において食事を楽しむ機会が増える等、その食事の楽しみ方、もてなし方が変化していると推察されます。

このような環境の中で、安心、かつ安全で美味しい料理や心のこもったおもてなしを提供することが飲食店の必要不可欠な要点であることは勿論でありますが、今、お店そのものの価値を高めるためには、経営者の「思い」というものも必須要件となっているものと思われます。

経営者がどのような思いを胸に抱き、店作りに日々、励んでいるのかを明確に打ち出すことが、お店のブランドを構築することに繋がるのではないかと存じます。経営者の思いに賛同してくれる、関心を寄せてくれるファンを創出することが、現在の厳しい生存競争を生き抜く、勝ち抜く条件になるのではないかと思います。

我が国を訪れる外国人観光客が急速に増える中にあって、日本の歴史、文化、芸術に関心の高い観光客層の呼び込みを図り、質の高い観光交流が求められております。外国人観光客の滞在中の行動、またリピーターの外国人の方で、次に日本を訪れた折にも行いたいこと、それは「日本での食事」が挙げられており、食に対する期待度が極めて高く、日本を訪れる魅力の中で「食」が一番の大きな要因となっております。

今や、世界に認められた日本の「食」を味わってみたいと思う外国の方がますます増えてきており、一国の文化の一面を代表する「食」を通じて、日本や日本人の本質に触れ得る観光交流の機会を実現する上で、より一層「食」というものが大きな役割を担うものと考えます。

私共の協会会員店は、その何れもが地域、地方を代表し、伝統と技術に裏打ちされた美味しい料理と真心のこもったあたたかいおもてなし等の全ての面にわたり、お客様より極めて高い評価を得ているお店ばかりでございます。

TPPの大筋合意により、今後、輸入される食材が増加し、仕入れコストの軽減が見込まれる一方、食の安心、安全に対する規制や基準が不十分となる可能性が増大することが懸念されておりますが、会員一人一人が食材等に関する情報に関心を持ち、共に情報を入手することにより食の安全の確保を確立することが大切であると認識しております。人は食べ物によってその健康も心も変わっていくものであり、食に対して常に真摯に向き合い、お客様の豊かな食生活の実現に貢献して参りたいと存じます。

協会においては、次代を担う若手の経営者を育成するため、経済人としての人格、教養、経営能力の向上と相互交流を図るとともに、連帯と協調を基本理念として協会内の世代交替による相互扶助精神の希薄化を防ぎ、将来においても会員相互間の意志疎通を図る有効な方策の一つとして「青年部」の設立に向けて鋭意準備を進めているところでございます。この「青年部」を通じて、若さ、情熱、そして広い視野を有する経営者を育成し、自由な試みとチャレンジ精神を基軸に協会の事業のより一層の総合的な活性化を図り、ひいては業界の健全なる発展に貢献して参りたいと存じます。

観光立国の実現は世界における日本の存在感を高めるものでございます。大きな観光資源であるとともに、世界に認められた我が国の「食」を通じて観光の魅力の向上に寄与するとともに、この素晴らしい、世界に誇り得る日本の「食」を守り、育成し、次代に継承することが私共の使命であると深く認識し、各種事業に取り組んで参る所存でございます。

今後とも、変わらぬご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年が関係者の皆様にとって実り多き年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

地熱発電は温泉を脅かす

日本温泉協会会長　大山　正雄

皆さん明けましておめでとうございます。

今年の干支は申（さる）です。申は「もうす」や「主張」の意ですが、白川静の『字統』によると神（しん）や伸の元字とのことです。協会は今年も温泉の文化や産業の伸展のために大いに努め、意見を関係機関に申し述べたいと思います。

インターネットによる公式ホームページは「温泉名人」の名称で協会の概要や温泉の知識とともに温泉地の情報源となっていますが、宿泊予約の操作を容易にするなど全面的見直しを行い、利便性の高い姿に生まれ変わります。

機関誌「温泉」は昨年から全ページカラー化や内容も一新し、多くの会員から好評を頂いています。本誌はロビーや談話室にも置いていただき、宿泊者にも新たな情報や知識のメリットになるよう努めてまいります。

御嶽山の水蒸気噴火や箱根山の火山活動は温泉観光客の大きな減少となりました。これにより再認識したことは、温泉地のみならず温泉地に食品、寝具、土産品などを供給している周辺地域の経済と雇用にも大きく影響が及んでいることです。すなわち、温泉は温泉地とそれを取り巻く広範囲の地域と関わりを持っている重要な産業だと言うことです。

地熱発電は現在の5倍計画が進められています。地熱発電は温泉の源の深部熱水を大量にくみ出し、硫酸で汚染した水を地下に戻しています。これは温泉利用の保養、安心、安全を脅かすものです。温泉は観光の筆頭で、日本人のみならず訪日外国人旅行者にも大いに好まれています。温泉の保全は数10万の温泉関係者や年間1億2千万の温泉宿泊者とともに観光立国を目指すわが国の方針にも関わることです。

日本は高齢者が年々増加し、現在、国民の25％の3200万人に達しています。これからの温泉地は保養や温泉療養としての必要性が高まっています。昨年末に環境省は新たに「温泉地保護利用推進室」を設置し、豊かな自然と温泉資源を活用した健康増進に体制強化が図られることになりました。日本温泉協会は当会の学術部委員会の専門家、環境省、国民保養温泉地協議会などと連携をしながらこの課題に取り組んでまいります。

今年の総会は神代の昔からの歴史を持つ四国の愛媛県道後温泉で開催します。総会後には視察旅行も計画しています。会員の皆様の参加をお待ちしています。

最後に、今年も会員をはじめ関係者の皆様に取りまして実りある素晴らしい年であることを祈願いたします。

訪日客2000万人達成を確信

全日本シティホテル連盟会長　藤野　公孝

2016年の新春を迎えられ心よりお慶び申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆さまご高承の通り、安倍内閣の経済政策（アベノミクス）の効果がようやく表れ始め、およそ四半世紀ぶりに我が国の経済は雇用の回復や賃金の上昇を含め全般的に好転の兆しが表れております。観光産業はインバウンド観光の振興を中心にアベノミクスの景気回復、地方再生の係る重要産業分野として位置づけられ、ビザの緩和・廃止、免税措置の拡大、円安などの効果により昨年の訪日観光外国人数は190万にも達しました。

一般的に観光資源とは気候、自然、食、文化と言われておりますが、日本は全てを兼ね備えている国であり、今後いかにこの価値を海外に発信していくかにより観光立国としての地位を高めていくことになります。

昨年の勢いが続けば、東京の五輪開催年の2020年の目標であった2千万人の本年中達成は間違いないものと期待されます。しかし外国人の旅行者の受け入れは世界的に見れば、20位以内であり、アジアにおいては5位以内であるがトップ3には入っておらず今後の国策に期待が寄せられております。

一方国内においては、2017年4月には消費税10％への再引き上げが予定されており、さらにマンション、アパートなどの空室活用のための「旅館業法」の改正が政治日程に上がる中、各団体とも緊密な連携を保ち、さらなる観光発展のため、皆さまのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

観光全盛の勢いを地方へ

国際観光施設協会会長　鈴木　裕

皆様、あけましておめでとうございます。

インバウンドは2千万人に迫る勢いとまさに観光立国全盛の勢いであり、この勢いを地方創生へとつなげていかねばなりません。

さて、観光とは国の光を観ることだといいます。地方創生につなげるためにはそれぞれの地方の光＝宝を見つけねばなりません。一方、観光は一種の装置産業という観点もあります。風景、景観、街並、建築、家具、什器、備品、アートワーク。これらは元来すべて地場の生活から作り出される装置であります。

寒暖の差が大きい恵那峡でエネルギーゼロ住宅を目指し改良を重ねている金子氏の研究から見えたのは、エネルギーゼロであれば北欧型高断熱住宅ではなく高性能規格型住宅でもなく、地場に合った在来工法の家が一番快適であることです。その地における日射、風、雨、湿度等々から最適な設計性能を実現するかたちにしていく従来の手法です。

兼好法師の「すまいは夏を旨とすべし」のコンセプトに従った調温、調湿が肝であり、有力な手法は版築の壁を使った木造在来工法でした。ドイツでも版築の効用が認められており理想の住宅の目指す方向は同じだということです。

地場の木材と土を使い風土にあった性能を得るべく、庇（ひさし）、開口、版築などをデザインしわずかな太陽光発電と太陽熱湯沸し装置を利用することで新築、解体を含めてエネルギーゼロの家ができます。地産池消により在来工法と大工、左官職が生き返って土地の気候に適した建築が生まれ、造成しない敷地に連続する建築は自然な街並みと景観を作り出し、林業が再生することで手の入った雑木林とそこで暮らす人々の生活のある里山の風景がよみがえってきます。そうした建築に合う家具、什器、備品、アートワークはやはり地場材のものを使いたくなります。

こうしてできた集落はオンリーワンのオリジナリティー溢れるものとなるはずです。見たことのない宝を観に来るのが観光です。観光が先にあるのではなく無駄を省いたゼロからの発想による地方再生の一手法そのものが観光産業と言えるのではないでしょうか。

日本人の心の奥に残っている「こころね」に従いふたたびゼロから出発してみませんか。

両国ビューホテル（東京都墨田区）

謹賀新年

平成二十八年　元旦

くつろぐ人の、いるところ

一日のスケジュールを終え、ホッと息を抜くひととき。
ひとりひとりのくつろぎの時間がはじまります。
私たちが、お客様ににおとどけしたいのも、そんなゆとりのある時間。
ビューホテルはいつも、お客様に心の底から
おくつろぎいただくための心くばりを忘れません。

くつろぎは、まごころから。
ビューホテルズ

浅草ビューホテル（東京都台東区）

ビューホテルズ＆リゾーツは、ただいま18ホテル

ビューホテルズは、国際規模のシティホテルからリゾートホテルまで、国内に18のチェーンホテルを繰り広げています。各地の魅力を活かしたホテルで、ごゆっくりおくつろぎください。

秋田ビューホテル（秋田県秋田市）　郡山ビューホテル（福島県郡山市）　郡山ビューホテルアネックス（福島県郡山市）　平ビューホテル（福島県いわき市）　高崎ビューホテル（群馬県高崎市）　那須高原ホテルビューパレス（栃木県那須郡）　ホテルグリーンパール那須（栃木県那須郡）　おくたま路（東京都青梅市）　成田ビューホテル（千葉県成田市）　ホテルプラザ菜の花（千葉市中央区）　ぎょうけい館（千葉県銚子市）　伊良湖ビューホテル（愛知県田原市）　岡山ビューホテル（岡山県岡山市）　ホテルグランビュー沖縄（沖縄県那覇市）　ホテルグランビューガーデン沖縄（沖縄県豊見城市）　ホテルグランビュー石垣（沖縄県石垣市）